



LSEG エキスパート・トーク

Real-Time – Optimizedによる マーケット・データの課題の解決： 4つのユースケース

はじめに

今日、世界中の金融サービス企業はマーケット・データとの関係を再考し、さまざまなユースケースに合わせてクラウド環境へ移行しています。本エキスパート・トークでは、LSEGの豊富なリアルタイムデータにクラウド上で容易にアクセス可能なReal-Time - Optimizedの4つのユースケースをご紹介します。

受賞歴もあるReal-Time - Optimizedは、リリース以来600社を超えるお客様との契約を実現し、取引ライフサイクル全体で幅広く利用されています。これらのユースケースは、組織がマーケット・データ環境を変革する際に考慮すべき、以下のさまざまな可能性をもたらします。

- ヘッジファンドへの暗号通貨データの配信
- ニュースを活用したインサイトの提供
- ミドルオフィス機能の強化
- FXデータによるデジタル・プラットフォームの強化

Real-Time - Optimizedには他にも多くのユースケースがあります。共有を希望されるユースケースがございましたら、当社までお問い合わせください。



LSEG DATA &
ANALYTICS

ヘッジファンドへの暗号通貨データの配信

最近の下落にもかかわらず、暗号通貨市場は進化を続けており、投資家もこのアセット・クラスに関心を持っています。本人確認が済んでいる暗号資産トレーダーの数は、2022年11月1日に4億200万人に達し、世界の暗号通貨時価総額は現在約1兆1,000億米ドルにも上ります。ヘッジファンドは、規模を問わず、従来の証券以外の分散投資の手段として暗号通貨に投資しており、長期のディレクショナル・ファンドやマーケット・ニュートラル・ファンドなどが投資先になっています。さらに、これらの新興アセット・クラスに対する投資家の関心が高まり続け、アセット・クラス自体が成熟し続けた結果、暗号通貨と分散型金融 (DeFi) に特化したヘッジファンドの数が増加しています。中には、追加収入を得る手段として、投資活動に加えて、イールドファーミング、ステーキング、レンディングを行うファンドも存在します。

暗号通貨に関する信頼できるデータを持つことは、ヘッジファンドとその顧客にとって重要なことです。流動性は複数のマーケット・プレイスに広く分散している可能性があるため、企業のフロントオフィスでは、取引の流動性がどこにあるかを特定できる力強いデータを必要としています。これは、特に暗号通貨の分野において当てはまるケースです。取引を行うためには、企業は最良価格がどの程度なのかを把握しなければなりません。企業によっては、価格データを自社の取引執行管理システム (EMS) でも使用したいと考えている場合があります。フロントオフィスでは、Real-Time - Optimized により、組織が利用しているクラウド・プロバイダー経由でクラウド環境でのコンピューティングと分析の活用も可能になります。これにより、データの処理に必要な時間とリソースが大幅に削減されます。取引が行われると、フロントオフィスは分析を実行して、最良価格で執行されたかどうかを判断する必要があります。

次に、ミドルオフィスは、ファンドの所在地に応じて、1日のある時間帯の価格のスナップショットを使用して、企業の損益に対してマークするために同じ暗号通貨データを処理する必要があります。リスク管理チームならびにコンプライアンス・チームも、それぞれの義務を遵守するためにデータを必要としています。

ヘッジファンドにとって、Real-Time - Optimized は暗号通貨データの確実なソースとなります。企業が受け取ったデータの品質を信頼できるということは、急速に変化する市場において重要なことです。さらに、クラウドベースのデータを持つことで、フロントオフィス、ミドルオフィス、バックオフィスは、取引ライフサイクル全体で同じデータを簡単に処理できるようになるため、オペレーショナル・リスクが軽減され、業務効率が大幅に向上します。Real-Time - Optimized が暗号通貨に関してサポートする機能には以下のようなものが含まれます。

- 1万7,000 を超える取扱い暗号資産
- 39の取引所のリアルタイムデータ
- 5年以上前に遡って利用可能なヒストリカルデータ

「ヘッジファンドにとって、暗号通貨というアセット・クラスへの投資は、魅力的な機会となっています」と LSEG のリアルタイム・デリバリー & インテグレーション部門責任者 Matt Eddy は述べています。「しかし、この機会にはリスクも伴います。信頼できるデータを活用することで、こうしたファンドは、データ関連のリスクを含む多くのオペレーショナル・リスクを大幅に軽減し、アルファの創出に集中できるようになります」

ニュースを活用したインサイトの深化

金融機関は、Real-Time - Optimized と Machine Readable News を組み合わせて使用し、取引シグナルの検知を向上させています。これら2つのデータソースを分析と組み合わせることで、経済指標の発表や M&A に関する独占的なニュース速報に基づくイベントベースのトレードなど、取引可能な新たな機会を見極めることができます。これらの処理はすべてクラウド上で完結します。

LSEG の Machine Readable News は、受賞歴のあるニュース・サービス「ロイター・ニュース」を使用しています。ロイター・ニュースは、あらゆるアセット・クラスにわたり、毎年400万件を超える記事を発行しており、世界200か所の拠点で、2,500名を超える記者が活動しています。また、毎年540万件以上の記事を配信している50以上のサードパーティ・ソースもロイター・ニュース・ソースに含まれます。

加えて、ロイター・ニュースやサードパーティから提供された構造化されていないリアルタイムのニュースを機械読み取り可能なフィードに変換します。自動化とマニュアルベースのプロセスの両方を介したメタタグ付けと集約により、インデックス・データを含む90の追加メタデータ・フィールドが提供されます。ニュースは、センチメント、重要性、関連性スコア、信頼度スコアなどの指標を利用したNLPの自動分析によってさらに補強されます。Machine Readable Newsは、Real-Time – Optimizedと同じデータモデルに準拠しているため、容易に2つのデータセットを連携させることができます。

ニュースベースのトレーディングモデルを作成する企業は、イベント・トレーディングモデルのバックテストを実行するために、ニュース・アーカイブをTick History データと組み合わせて使用することも可能です。Tick History も Real-Time – Optimized と同一のデータモデルに含まれており、バックテストの実行に伴う作業を最小限に抑えることを可能にします。

Real-Time – Optimized は、LSEG 内およびお客様による他のAL、ML、ディープ・ラーニングのユースケースで使用されています。データがすでにクラウド上にあるということは、クラウドベースの分析サービスやその他のツールですぐに利用できることを意味し、サーバーベースの配置よりもはるかに高い機動性を生み出します。以上を踏まえ、Eddy は次のように述べています。「今後ますます多くの金融機関が、クラウドベースのAIやMLのユースケースにReal-Time – Optimizedを使いたいと考え、それが業界の方向性となるでしょう」

ミドルオフィス機能の強化

今日において、銀行、ブローカー・ディーラー、アセット・マネージャーは、収益を生み出すフロントオフィスとミドルオフィス、バックオフィスとの間のデータとテクノロジーのギャップを埋める必要があることを認識しています。何十年の間、金融機関のこれらの部門の多くは、異なるデータとテクノロジー・プラットフォームを使用して運営されており、コストの非効率性、オペレーショナル・リスクの上昇、そして場合によっては、決済不履行などによる深刻な損失の原因となってきました。

多くの場合、ミドルオフィスやバックオフィスはリアルタイムデータにアクセスできず、フロントオフィスとは異なるテクノロジー（異なるモデルを含む）を使用していました。さらに、従来型のシステムは相互の通信に苦戦しており、場合によっては手作業による次善策が必要でした。

また、バーゼル銀行監督委員会によるトレーディング勘定の抜本的見直し(FRTB)、など、新しい信用リスクおよび市場リスク規制では、取引ライフサイクル全体でこれまで以上に優れた接続と透明性が求められています。

銀行、ブローカー・ディーラー、アセット・マネージャーの取引業務において、Real-Time – Optimized は、ミドルオフィスおよびバックオフィスのユースケースへの導入が進んでいます。クラウドベースのReal-Time – Optimized は、地理的制約がなくどこからでもデータにアクセスできるため、特に注目が集まっています。Real-Time – Optimized は、堅牢なデータガバナンスをサポートし、組織全体のすべてのプロセスでまったく同じデータを使用できるようにします。これにより、オペレーショナル・リスクの軽減と業務効率の向上が期待できます。

また、Real-Time – Optimized はLSEGのデータモデルに準拠しています。つまり、データはReal-Time – Direct、Real-Time – Full Tick、Tick History など、他のリアルタイム・データフィードとの一貫性があるということです。幅広いレイテンシーでReal-Time – Optimized による接続が可能になるということは、一貫性を保つための共通のコード体系を使用して、ミドルオフィスとバックオフィスがフロントオフィスと同じデータを使用していることを確認できることを意味します。

さらに企業は、取引ライフサイクル全体でReal-Time – Optimized による接続性の向上を実現するために、新しいテクノロジーにも投資しています。これを支援するため、Murex は2023年5月末に、MX.3がAmazon Web Services(AWS)でホストされている場合にMX.3プラットフォームとReal-Time – Optimized の連携を可能にすることを発表しました。MX.3のユーザーは、Real-Time Distribution System およびReal-Time Managed Distribution Service 経由でReal-Time – Optimized にアクセスすることもできます。

Murexの単一のオープン・プラットフォームMX.3は、取引、財務、リスク、およびポストトレード業務をサポートし、フロントフィス、ミドルフィス、バックオフィス全体でデータ、分析、計算の一貫性を確保します。

数年前に MX.3 を導入した北米の大手銀行では、フロントオフィスとリスク管理チームが同じプライシング・ライブラリにアクセスできるようになりました（以前は 2 つの異なるモデルを使用）。また、このプラットフォームにより、銀行は FRTB などの市場リスク規制要件の遵守がより容易になります。異なるシステム間での照合が不要になったことにより、オペレーショナル・リスクも大幅に軽減され、問題が発生した場合には迅速かつ効果的に調査できるようになりました。

「昨今、世界中の金融サービス企業が大規模なデジタル・トランスフォーメーションに取り組んでいます」と Eddy は述べます。「テクノロジーだけでなく、データの更新も不可欠です。クラウド上のマーケット・データを利用することで、ミドルオフィスとバックオフィスはフロントオフィスと連携して効率性を高め、リスクを軽減できます」

FX データによるデジタル・プラットフォームの強化

世界中の決済代行会社や送金サービス会社は、Real-Time – Optimized を通じて配信される FX データを活用しています。これらの企業は、革新的で迅速かつ手間の少ないサービスを提供し、国境を越えて世界中のビジネス、買い物、旅行、送金を行う際の顧客のニーズを満たすことに注力しています。

そしてビジネスモデルの基本は、24 時間 365 日体制の国際通貨市場を正確に反映した高品質の FX データの需給で成り立ちます。信頼できるデータを利用することで、これらの企業とその顧客は可能な限りの最良の意思決定と、最も効率的な方法での取引執行を行えるようになります。

たとえば、これらの決済代行会社や送金サービス会社の多くは、顧客向けの為替レートとマージンの設定のために Real-Time – Optimized の FX データを利用しています。データは、顧客が直接操作するウェブインターフェースを通じて、またはカスタマーサービス担当者が使用する画面を通じて配信されます。これらの企業はまた、通貨ポジションの管理、ヘッジ戦略の策定と実行、規制要件の遵守のために、財務、リスク管理、コンプライアンスの各部門にデータを展開しています。

これらを効率的かつ効果的に行うことができるのは、Real-Time – Optimized がパブリック・クラウドから外国為替価格データを、ゼロフットプリントおよびリアルタイム・ストリーミングで配信するためです。企業は、あらゆる通貨の為替レートを収録した LSEG の外国為替データカタログから、ユースケースに必要なデータを選択することができます。Real-Time – Optimized は、2,000 を超えるコントリビューターから提供された 175 通貨の価格データを以下の取引にわたって提示しています。

- FX スポットレート
- FX クロスレート
- FX フォワード・スワップ
- FX フィキシング
- FX ロッキングレート
- 通貨ワラント
- ノンデリバラブル・フォワード (NDF)
- FX OTC オプション
- FX ボラリティ・フィキシング
- FX ボラリティ・サーフェス
- 通貨インデックス

LSEG の FX データは、FX Matching および FXall による独占的な取引ベニュー価格によってサポートされています。セントラル・リミット・オーダーブックを採用する FX Matching は、FX トレーダーにリアルタイムの信用審査、価格発見の強化、集中流動性、効率的な取引執行を提供します。また FXall は、200 を超えるプロバイダーと 2,300 のバイサイド機関からの潤沢な外国為替流動性へのアクセスをアクティブ・トレーダーに提供しています。トレーダーは、複数の大手流動性ベニューから執行を選択することが可能になります。

決済代行会社や送金サービス会社の社内システムを Real-Time – Optimized の FX データに接続することで、顧客取引のレート設定、リスク管理、ヘッジ、取引のためのセットアップをわずか数時間で行うことができます。これは、Websocket や Python などの言語を使用した業界標準のオープン API の恩恵です。Java および C++ 用の高性能な開発キットも利用できます。

また、外国為替市場は 24 時間 365 日体制であるため、これらの企業は、Real-Time – Optimized に組み込まれた強固なオペレーショナル・レジリエンスと、自社と同じ時間帯に稼働するサポート・サービスを高く評価しています。

「外国為替取引は日々目まぐるしく行われ、市場もまた急速に進化しており、外国為替の決済代行会社や送金サービス業界もこれと同様の動きを辿っています」と Eddy は語ります。「LSEG のデータを活用することで、こうした企業はリスク、コンプライアンス、マージンを管理しつつ、可能な限り最善の方法で顧客をサポートできるようになります」

まとめ

クラウドベースの Real-Time – Optimized は、今日においてさまざまなユースケースをサポートしており、上記はほんの一例です。Real-Time – Optimized により、金融機関や企業は次のことが可能になります。

- 単一の ID から、さまざまな外国為替取引ベニューや OTC 市場で取引されている 9,000 万超の銘柄を網羅した高品質で正規化されたリアルタイムデータにアクセス
- コード体系を含む LSEG のデータモデルに準拠したデータを活用し、フロントオフィス、ミドルオフィス、バックオフィスのユースケースでデータを接続できるほか、リファレンスデータや機械読み取り可能なニュースなどにもデータを接続
- 常に進化を続けるコンピューティングと分析の機能を、ご利用中のクラウド・プロバイダーを介してクラウド上で利用できるようにし、データ処理に必要な時間とリソースを大幅に削減
- 物理的なサイトに縛られず柔軟なアクセスを提供できるマシン ID を使用し、アプリケーションを新しいサイトやクラウドへ容易に移行
- 24 時間 365 日体制のグローバルチームによるサポート、およびクラウドへの移行やクラウドネイティブな運用といった企業のニーズを理解するプロフェッショナル・サービスチームからのサポート

Real-Time - Optimized の詳細については、こちらをご覧ください。 [Real-Time – Optimized](#)

